



小野市議会だより



ゆっくり議会を 傍聴しよう

小野託児サークル「このゆびと～まれ♪」の
会員による託児風景

子育て中の保護者のみなさま

託児は、おまかせ

☆小野市議会は、議会開催中に、お
さまの託児をすることになりました。
6月開催の定例会本会議から、子育
中の保護者の方々にも議場で本会議
をご覧いただけるようになります。

いま子育て中で、議会の傍聴に行け
ない方々も、議員の質疑・質問や市長
はじめ担当部局答弁の生の声を、現場
で体感していただく機会をつくりま
した。

お子さまの託児のお手伝いをしてい
ただくのは、託児ボランティアグル
ープ・小野託児サークル「このゆびと
まれ♪」のメンバーの方々です。子育
て中のお子さまを本会議開催中、時間
を決めてお預かりいたします。

■6月定例会で託児コーナーを開設す
るのは、質疑・一般質問がおこなわれ
る6月14日(水)、15日(木)のそれぞれ
10時から12時までの2時間とします。
ご希望の方は、6月6日までに、議会
事務局(TEL 63-1006)へお申し
込みください。(当日の受付はできま
せん)

第342回

3月定例会

主な内容

- ・一般質問(3～5ページ)
掘井算満・藤本修造・松井精史
吉田成宏・鈴木 元・竹内 修
- ・議案質疑(6・7ページ)
春名良兼・川名善三・石田喜久男
- ・各常任委員会の審査(7ページ)
- ・予算特別委員会の審査(8・9ページ)
- ・議会活性化の委員会報告(10・11ページ)
- ・主な可決議案(12ページ)

第342回 3月市議会定例会は、2月28日から3月24日まで、25日
間にわたり開催しました。

市長から「子育て支援など福祉・教育の充実」「活力とにぎわいの
創生」「安全・安心のまちづくり」「協働と参画の実践」「ガーデ
ニングシティおのの推進」「更なる行財政改革の推進」を重点項目
とした18年度所信表明があり、18年度一般会計予算、特別会計予算、
企業会計各予算、17年度補正予算、条例制定、人事案件、意見書案
など69議案を原案どおり可決しました。

三月定例会

一般質問発言者

掘井算満議員

- ・肥満対策について
- ・老人クラブの現状について

藤本修造議員

- ・18年度所信表明について
- ・小野市の教育行政について
- ・小野市民病院について

松井精史議員

- ・学校教育について
- ・小野市の今後の夢あるハード計画について
- ・白雲谷温泉ゆびかの今後の運営方針等について

吉田成宏議員

- ・広報広聴活動の更なる拡充について
- ・白雲谷温泉ゆびかの施設整備について
- ・主要地方道の改良促進について

鈴垣元議員

- ・水道事業について
- ・格差社会の進行と自治体の役割について

(一般質問・質疑は発言した議員が編集しました)

- ・障害者自立支援法施行について
- ・市長提案について

竹内修議員

- ・兵庫県の平成18年度当初予算について
- ・安心安全のまちづくりについて
- ・人口から見る小野市の将来について



議員研修：市民救命士講習会の受講風景

質疑発言者

春名良兼議員

- ・議案第9号小野市一般会計補正予算について
- ・議案第15号・16号小野市国民保護関係条例の制定について
- ・議案第30号一般職の職員給与関係条例の制定について
- ・議案第38号小野市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

川名善三議員

- ・議案第1号平成18年度小野市一般会計予算について
- ・議案第14号小野市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の制定について
- ・議案第34号小野市福祉医療費助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について

石田喜久男議員

- ・議案第52号・61号小野市の指定管理者の指定について

一般質問と質疑は どこがちがうの？

3月定例会は、6人の議員が、一般質問をし、3人の議員が質疑をしました。

一般質問は、議員が定例会の議場で、市長や幹部に対して、市政全般のことで、道路工事や、介護保険、学校教育などについて説明を求めたり、事業のなかで知りたいことなどを質問します。

一般質問は、市政全体の広い範囲にわたることを質問するのに対して、**質疑**は、市長や幹部に対して、今定例会の提出議案の内容のみについて質問することをいいます。

3月定例会において質疑の対象となった議案は、18年度小野市各会計予算、17年度各補正予算、条例の制定、指定管理者の指定、市道路線の認定・変更、人権擁護委員候補者の推薦など、全部で66件ありました。

ご意見をお待ちしています

議会のメールアドレス：gikai@city.ono.hyogo.jp



新生クラブ

掘井 算満 議員

老人クラブの現状

質問 飽食の時代に伴い成人病の低年齢化が社会問題となり、保育園児から中学生までの肥満が急増しています。家庭での対応が欠かせないが、学校における指導及び対策についてお聞きします。

答弁 市の肥満児の現状は、幼稚園児が2・7%、小学生は8・5%、中学生は9%で、全体では5,744名中、435名が肥満となっています。学校での指導は、担任や養護教諭が個別に保護者、児童と一緒にあって、就寝時刻、起床時刻、朝食の内容、栄養指導、おやつ摂取について指導しており、また、学校給食センターの栄養士を各学校に派遣し、子供の栄養指導も行っています。肥満児率は、平成12年をピークに漸減傾向にあり、更に減少に努めて参ります。
(教育長)

質問 市老連に加入の地区は、6地区53単老で、河合地区では市老連脱退し、2町単老が解散したと聞いています。高齢者社会が更に進む中、老人クラブ組織の充実が求められています。今後、老人クラブの育成指導にどう取り組まれるのか、衰退の原因は何に起因するのか、お聞きします。

答弁 老人クラブは、12年度の73クラブから、現在61クラブとなり、5年間で12クラブが減少、会員数も高齢者の増加に反して、5年間に720人減少し、4,243人になっています。再加入については、担当部から、老人クラブ連合会、区長会に働きかけていますが、再加入に至っておりません。また、育成指導についても、生きがいと健康づくりを進める活動やボランティア活動などをはじめとした地域を豊かにする各種活動については、引き続き財政的な支援をしてまいります。
(市民福祉部長)



市民クラブ

藤本 修造 議員

平成18年度所信表明について

質問 「子育て支援など福祉の充実」の取り組みについて

答弁 「常に現状に満足することなく、自己変革を続け、変革し続ける小野市でありたい、それは「ゼロベース」の発想でのチャレンジ」であり「破壊と創造へのチャレンジ」でもある。「オンリーワン」とは、目立つということではない。「ここにしかない小野市らしさを追求する行政であり、自然・歴史・立地・交通・人材など小野市にある資源や特性を知恵と工夫によって、生かしていくこと。十八年度新規事業、障害児等支援について必須事業としては①障害者・障害児の保護者等から相談に応じるとともに、情報提供を行なう「相談支援事業」②手話通訳者、要約筆記者の派遣「コミュニケーション支援事業」③日常生活用具の給付等を行なう「日常生活用具給付事業」④ガイドヘルパー等の障害者の移動の支援「移動支援事業」⑤創作的活動・生産活動の機会の提供等の通所サービスを行なう「地域活動で一貫した指導体制が望まれる支援センター事業」になります。
(市長)

質問 「川島理論」に学ぶ教育の一貫性について

答弁 一生涯の教育を「就学前教育」「学校教育」「成人教育」「高齢者教育」の領域と捉えています。今後の課題となるのが就学前の領域であり、大人の脳の重さの90%に達する3歳までの子育て教育の重要性を考えると、学校教育と就学前教育の一貫した指導体制が望まれます。
(教育長)



新生クラブ

松井 精史 議員

質問 川島東北大学教授の脳科学理論を家庭教育に生かすことについて

答弁 ◎教育指導の一貫性を持たせるため乳幼児から高齢者までを対象にした「小野市生涯教育計画」を作成します。

◎学校と家庭の連携を強化し、検定ファイルを作成します。

◎子育ての時期に、川島脳科学理論に基づき前頭前野を鍛えることが大切であり、家庭へ啓発していきます。
(教育長)

質問 特別指定区域では調整区域に住宅が建設できるが申請の状況はどうか

答弁 住宅建築に関する申請がすでに6件ありました。他市に先駆けての特別指定区域の指定が、市民ニーズに合致したものと思います。

(地域振興部次長)

質問 王子南区画整理の進捗状況は

答弁 平成18年3月末に「小野市王子南土地地区画整理組合」として発足、事業期間は平成22年までの5年間を予定しています。

(地域振興部次長)

質問 東条川周辺整備について

答弁 東条川樹木の伐採や、推積土砂の掘削工事が、集中的に進められています。東条川周辺整備は、安心して川と触れあうことができる中州の整備が、18年末に完成する予定です。
(技監)

質問 工業団地の造成計画は

答弁 候補地は、小野工業団地東側の山林34ヘクタールで地権者の意向把握を調査し、了解を得られれば、造成計画を推進する予定です。

(総合政策部長)

白雲谷温泉ゆぴかの

施設整備について

質問 年間40万人超の利用客で賑わう温泉周辺に、自然環境を活かした里山林の整備、宿泊施設、農産物直売所等を設け、アクセス道路の整備等、市の交流拠点として、グレードアップを図りたい。

答弁 ゆぴかの管理運営は、小野市都市施設管理協会を指定管理者として、毎月、経営会議を開き、来場者数、収支状況等、原単位管理報告を受け、管理者として迅速な対応が図れるよう努めています。

宿泊機能を備えた交流施設は、温泉活用施設改善等基本計画策定委員会を設置し、順次、建設に取りかかります。農産物直売所も同委員会で検討します。

アクセス道路は、歩道の新設、踏切の拡幅、万才橋周辺交差点改良等により歩行者の安全や車の流れが確保され、利便性に優れた道路網が構築されます。なお、東播磨南北道路と接続するランプウェイ設置計画はありません。

(地域振興部次長)

新生クラブ

吉田 成宏 議員

主要地方道の改良促進について

質問 ①三木山崎線栗田橋周辺は、しばしば渋滞に遭遇するが、JR粟生踏切の改良を含めた進捗状況を伺いたい。また、基地周辺整備の防衛予算は確保できないのか。

②小野香寺線JR西脇踏切周辺の歩道設置は、通学路の安全のため地元から強い要望がある。国や地権者との早期の合意を図りたい。

答弁 ①は、一日通行量1万3千台を超え、老朽化した栗田橋架け替え、JR跨線橋・取付道路等、全体計画で3ルートを検討、建設促進を働きかけています。防衛関係予算は県道のため対象外と認識しています。

②は、県事業で小野志方線、平荘市場線の改良工事、黍田第3踏切工事に取組んでおり、具体的計画はないが、用地問題で地権者の協力を得られれば検討すると聞いています。
(技監)

格差社会の進行と

自治体の役割について

質問 所得格差が社会問題となっている。「規制緩和・市場原理」万能による競争と利潤追求最優先の経済・雇用政策等の要因によるものだが、今後も、増税や医療費など「国民負担増」が予定されており、市民の暮らしに直接係わる市の役割は一層重要だ。市政執行にあたって、現在の社会状況をどう捉えているか。

答弁 世論調査で75%の人が「経済的格差が広がっている」と回答したと報じています。社会状況を表す指標の一つとして「生活保護」世帯数の推移がありますが、小野市ではここ3年間80世帯と横ばいであり、格差の広がりはまだ顕著に表れていません。しかし、生活支援相談は増加傾向にあり、今後注視してまいります。(助役)

質問 新年度予算編成にあたり「市民の暮らし」に配慮した点はなにか。

答弁 ①小学3年生までの医療費無料化 ②児童手当支給対象年齢の小学6年生への引き上げ ③育児ファ

日本共産党

鈴木 元 議員

ミリーサポート利用料の半額補助
④小学生以下や65歳以上のらんバス運賃無料化 ⑤障害者地域生活相談支援センターの設置などです。

質問 医療、介護、福祉分野の低所得者対策はどうか。

答弁 医療は、国民健康保険税の「7割・5割・2割軽減措置制度」があり、昨年10月で45・3%の世帯が受け、介護保険は、保険料減免者は38名、社会福祉法人によるサービス利用の減免者86名、施設の食費・居住費自己負担の補足給付対象者278名です。(市民福祉部長)

質問 就学援助の支給を受ける児童・生徒の状況はどうか。

答弁 17年度の受給者は、小学生340人、中学生157人、計497人、受給率は10・5%です。12年度が282人、6年間に1・76倍の増加となっています。(教育次長)



公明党

竹内 修 議員

です。今後も啓発活動に積極的に取り組んでいきます。

質問 県平成18年度予算では、小児科救急拠点病院体制整備事業費が計上されていますが、小野市民病院としてこの事業にどう取り組まれますか。

答弁 市民病院に長期間入院をしている児童に対して、院内学級を開設する予定をしております。(市民病院事務部長)

質問 全国で、児童に対する凶悪事件が多発していますが、危機意識の再確認とともに、兵庫県「まちづくり防犯グループ」制度の啓発推進状況と、市の「自主防犯組織」に対する考えをお聞かせします。

答弁 自主防犯組織の果たす役割は非常に重要と考えます。その活動は継続がキーポイント。押し付けではなく、市民意識の盛り上がり重要です。

(市民安全部長)

質問 団塊世代の2007年退職問題のように人口の世代間格差は大きな問題があり、その解消は大きな課題と考えますが、市の年齢別人口分布の中で人口の少ない中等教育世代とその親の転入の推進を図ることが重要と考えます。教育費負担の大きな中等教育世代への、思い切った教育支援に対する考えをお聞かせします。

答弁 人口問題は市政運営上重要な喫緊の課題と受け止めています。教育費の負担軽減については税の公平さという点からも意見の分かれるところでありますが、現在の高校生、大学生が将来小野市に住みたいとする観点からも検討してみたいと考えます。(市長)

議案

質疑

日本共産党

春名良兼 議員

質疑 JR粟生駅周辺整備での補正予算の内容は

答弁 防衛周辺整備事業の補助内定により実施、粟生駅は神戸電鉄と北条鉄道が接続した基幹駅で、利便性を活かした新たな交流の拠点駅として、核となる施設「陶芸の館」を整備するものです。事業費総額は約5億円、平成19年に完成予定です。陶芸体験学習施設やコミュニティホール、展示場、駐車場等、周辺には多目的に利用できる公園など整備するものです。
(総合政策部長)

質疑 小野市国民保護協議会条例は、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律が施行されたためとありますが、法律の中身について説明をしてください。

答弁 いわゆる国民保護法です。武力攻撃事態等において国民の生命、身体及び財産を保護するため、または武力攻撃が国民生活及び国民経済に影響を及ぼす場合に影響が最

小にするための措置。これが適切かつ効果的に実施されることを目的としております。

国民が武力攻撃による被害を適正に回避できるようにすること、また、国民が被害を受けた場合、被害を最小限化し、国民の通常の生活を維持することを趣旨としています。
(市民安全部長)

質疑 小野市介護保険条例の一部を改正する条例について、第一号被保険者の保険料率が大きくアップしている要因は

答弁 介護保険制度が始まった平成12年度の要介護認定者数911人から16年度では1,416人と55.4%と増加。

平成18年度からの、新予防給付や介護予防の事業効果をふまえても、高齢者人口の増加により、要介護認定者が1.4%程度上昇する見込み、また、保険給付額の増加見込みによるものです。
(市民福祉部長)

議案

質疑

公明党

川名善三 議員

議案第一号
平成18年度小野市一般会計予算

質疑 児童福祉費地域型アフタースクール運営補助金200万円の具体的内容について

答弁 小野市では、市内全小中学校でアフタースクール子ども育成事業を実施しています。この度の補助金2百万円は、神戸電鉄による小野駅ビル内に市の直営方式に準じた事業の実施希望がありました。児童数の状況、事業の継続性、利便性などを慎重に検討し、補助方式による新たな展開を図ります。補助内容は、指導員配置等に係る運営費補助、障害児受入の強化推進費、初年度開設費などとしています。
(市民福祉部長)

質疑 神戸電鉄駅周辺事業の計画内容について

答弁 神戸電鉄榎山駅周辺の整備予算で、榎山駅の整備は、小野市の南

整備が必要で平成18年度から駅と周辺整備に着手するものです。事業の概要は、平成19年完成予定、概算の事業総額は1億7千万円を見込み、コミュニティ施設や駅前広場、ロータリー、駐輪場などを予定していません。
(総合政策部長)

質疑 小野市福祉医療助成に係る条例改正については、これまでの乳幼児医療費助成制度が拡充されるが、その内容は

答弁 これまでの所得制限の内容は、児童手当法特例給付の所得制限を準用し助成対象者を限定してまいりましたので、収入金額では、夫婦と子供2人の世帯の場合は年収780万円以上ある方の幼児は対象外としており、幼児は155名でした。この度の制度改正により対象年齢をさらに小学校3年生まで拡大するため、250人程度が対象外となるところが所得制限を撤廃することにより、これらの方が新たに支給対象者になります。
(市民福祉部長)

議案

質疑

小野市の指定管理者の

指定について

質疑 指定管理者の指定には、民間の事業者、NPO法人、ボランティア団体なども含めて広く公募し、よりふさわしい管理者を決めると理解しているが、今回どのようにして決定されたか。

答弁 対象の公の施設は88施設あり、そのうち、保健センターや、児童館、ひまわり公園など43の施設は直営で管理する施設とした。また、コミュニティ供用施設の各会館、老人福祉センター、商工業振興センターなど14の施設は、現在自治会や公共的団体が管理しており、その成果が十分に発揮できていることから、これまでどおり自治会などを指定管理者として選定しました。残る28施設については公募準備のための事前調査をしましたが①サービス上実績のある業者が少ない。②民間業者の積極的な参加がなかったため、現在の管理委託

新生クラブ

石田喜久男 議員

者を引き続き指定管理者としました。この制度の導入を機会に、スポーツ施設などについては、更なる市民サービスの向上を図り、開館時間の延長や、休館日を無くすための見直しをしました。今回の、指定期間は3年間と比較的短期間とし、早期に見直しの機会を設けるようにしています。(助役)

質疑 多くの施設の指定管理者を財団法人都市施設管理協会理事長にしているが、当該理事長は、小野市の収入役でもある。収入役は、執行部門の金銭支出に対する牽制機能が期待されているが、その点、どう考えているか。

答弁 法的に問題ないこと。および、現在、収入役としての職責を十分果たし、かつ、管理協会の理事長としての職務を適正に遂行されており、兼務については特に問題はないと考えています。(助役)

常任委員会の審査報告

3月定例会は、22日、総務文教、民生保健、地域振興の各常任委員会を開催し、議案第14号から第65号まで、合計51議案について、市当局から詳しく説明を受け、そのあと慎重に審査をいたしました。議案51件すべてについて反対討論はなく、「本会議においては全会一致で、可決することが望ましい」とした審査結果をまとめました。

総務文教常任委員会 (吉田成宏委員長) に付託された20件の議案のうち、議案第14号小野市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の制定について、委員から「行政全般の手続きに関して、市民の利便性向上のため電子申請を可能とするものであるが、すべての市民がインターネットサービスを享受できないことから、誰もが平等に行政情報が行き届くよう紙ベースでの窓口対応中心に、さらなる市民サービス向上を検討されたい」という意見が述べられました。

民生保健常任委員会 (藤本修造委員長) に付託された16件の議案において、特に指摘した事項はありませんでした。

地域振興常任委員会 (鈴垣 一元委員長) に付託された15件の議案において、特に指摘した事項はありませんでした。



よりよい市民サービスをめざして住民票・印鑑証明・年金手続などの窓口対応に努める市役所2階フロア



予算特別委員会 報告

委員長 吉田成宏 議員
副委員長 藤本修造 議員

予算特別委員会は、議員全員による審査を行いました。

予算特別委員会付託議案 8 件

- ・ 議案第 1 号 平成18年度小野市一般会計予算
- ・ 議案第 2 号 平成18年度小野市国民健康保険特別会計予算
- ・ 議案第 3 号 平成18年度小野市老人保健特別会計予算
- ・ 議案第 4 号 平成18年度小野市介護保険特別会計予算
- ・ 議案第 5 号 平成18年度小野市都市開発事業会計予算
- ・ 議案第 6 号 平成18年度小野市民病院事業会計予算
- ・ 議案第 7 号 平成18年度小野市水道事業会計予算
- ・ 議案第 8 号 平成18年度小野市下水道事業会計予算

予算特別委員会の委員は、本会議（第3日）で、全議員が委員として予算案の審査にあたることを決め、委員長に吉田成宏議員、副委員長に藤本修造議員を選任しました。

市当局から提出された平成18年度予算案は、一般会計が190億円、特別会計が111億円、企業会計が93億円、総額は、394億円（前年度比14%増）となっています。この予算案について、3月14日、15日、21日に予算特別委員会を開き、慎重な審査を実施しました。

平成18年度は、景気の回復が期待されていますが、前年度に国が実施した三位一体改革による国庫補助金の廃止や地方交付税の抑制などにより、地方自治体の財源確保がますます厳しい状況となっています。

この厳しい財源状況を踏まえ、委員から小野市がめざす「21世紀のエクセレントシティ」の「構想の実現のためには、どのように政策を推し進めるのか、限られた財源の有効活用、市民満足度の高揚、徹底した合理化による財政健全化を維持しながらも住民福祉をいかに向上させていくか、さらに時代を先取りした自治体の政策などについて、市の担当部局と議論を重ねました。

審査の過程で、議案第1号平成18年度小野市一般会計予算のうち、国民保護対策費について反対討論があり、採決の結果、賛成多数（反対2）で原案のとおり可決するべきであると決定しました。

議案第2号から議案第8号まで7件については、いずれも原案のとおり可決するべきであると決定いたしました。次のページに委員の主な意見を記載しています。

■ 共通事項

指定者管理制度は、公共施設管理を、民間にもできるところは民間にまかせようとする制度だが、管理者を指定するにあたっては競争性を取り入れることが望ましいとされており、公募により民間事業者を選定するなど、さらなる市民サービス向上と経費削減に努められたい。

● 総合政策部には

市民の足として定着したコミュニティバス（らん♥らんバス）運行事業は、従来の目的とは別に社会情勢にあわせた運行方法も考えられる。たとえば、近頃、児童が襲われるなどの事件も発生しており、人通りのない通学箇所には、コミュニティバスを廻すなどの対応もできると思うので、市民のためのバスとして柔軟に対処するよう、市民にやさしい事業をめぐりて努力されたい。



市民の足 らん♥らんバス

● 総務部には

パソコンソフトのウィニーによる官公庁から情報流出が続いているが、情報管理については、個人情報情報はもちろんのこと、組織の信用に関わることであり、セキュリティにはとくに入念に調査され、これからの情報保護対策に努められたい。

● 地域振興部には

道路上に樹木がはみ出している箇所があり、車両の通行や、景観上も支障があるため、地元の協力のもと、市は重機での応援に取り組むなど、引き続き、安全で快適な道路整備に努められたい。



神鉄小野駅内にアフタースクール開設

● 市民福祉部には

地域型アフタースクール運営事業は、従来各小学校に開設していたものに加え、神戸電鉄小野駅ビル内にも開設する。この事業は、駅などの公共的施設を利用した学童保育の取り組みとして今後発展が期待できるが、学童保育を希望する市民のニーズに合わせて、さらに充実するよう努力されたい。

● 市民病院には

市民病院の屋上の汚れが病室棟からも見えていたが、屋上の緑化計画が実施されることで、環境はもとより景観にもよるので、今後も計画的に、病院全体の環境、景観の整備に努められたい。また、第2駐車場の整備も早期に実施されたい。



屋上の緑化をすすめる市民病院

● 教育委員会には

全小学校にALT（外国語指導助手）を配置して小学生の英語教育に取り組む予定だが、先進的な事業であって大いに注目されている。国際人を育成するためにも中学校卒業時には簡単な日常会話ができるという目標を立てており、成果が上がるよう努力されたい。

● 農業委員会には

標準小作料改訂事業経費が計上されているが、今年が3年ごとの見直しの年にあたり協議会を設置して、契約のめやすとしての小作料を決めている。改訂にあたっては、賃貸借の契約がスムーズに運ぶよう適正な水準額をお示し願いたい。

● 消防本部には

40トンの容量をもつ防火水槽2基を設置する予定となっている。これは、水道管の太さ制限のために消火栓が設置できない地域の対応策だが、防火水槽の設置を促進するために、地元と協議のうえ、未設置場所については、速やかにその解消を図られたい。



河合小学校の英語活動

置する予定となっている。これは、水道管の太さ制限のために消火栓が設置できない地域の対応策だが、防火水槽の設置を促進するために、地元と協議のうえ、未設置場所については、速やかにその解消を図られたい。

は活性化にどう取り組んだか

●民生保健常任委員会

委員長：藤本修造
副委員長：川名善三
委員：河合俊彦、掘井算満、
河島喜代美、横山四郎

民生保健常任委員会は、7月12～14日に北海道の室蘭市（PFI方式による公設民営ごみ施設の運営について）、江別市（江別河川防災ステーションについて）の2市で行政視察研修を実施しました。

民生保健常任委員協議会（研修会）として、つぎの項目について委員会活動を実施しました。

- ① 8月9日 ■委員会活性化を協議
- ② 8月23日 ■アスベスト禍について
- ③ 8月29日 ■介護保険制度改正の背景について
- ④ 10月21日 ■知的障害者入所厚生施設「希望の郷」訪問
- ⑤ 11月21日 ■小野市民病院の経営について
- ⑥ 1月27日 ■地域包括支援センターについて
■障害者自立支援法に基づく対応について
■船木浄水場の改築について



市民病院で研修する民生保健常任委員協議会

●地域振興常任委員会

委員長：鈴木 元
副委員長：加島 淳
委員：山中修己、竹内 修、
藤原 健、松本英昭

7月13～15日に新潟県加茂市（農機具購入補助制度について・花と緑のまちづくりについて）福島県会津若松市（会津ブランドを生かしたまちづくりについて・新規就農支援センターについて）の2市で視察研修を実施しました。

地域振興常任委員協議会（研修会）として、つぎの項目について委員会活動を実施しました。

- ① 8月10日 ■委員会活性化の取り組みを協議
- ② 10月14日 ■活性化具体案の決定
- ③ 11月8日 ■担当課から各課事業進捗状況の説明 ■道路河川課関係の現地視察
- ④ 11月11日 ■農政課関係の現地視察 ■山田・きすみの地区営農組合と会談
- ⑤ 11月21日 ■景観整備・商工課関係の現地視察 ■商工会議所と会談
■シルバー人材センターと会談



事業の説明を聞く地域振興常任委員協議会

地方分権は、地方に多くの自己決定が与えられましたが、自己責任も伴っています。そのために議会の議決権、監視機能が重要となります。

小野市は「もっと変えよう小野、もっと変わろう小野市」を掲げ、他市に先駆けた新たな行政運営を進めています。議会は、あるべき議会の役割・議員の姿を描き、議会の活性化・議会改革に取り組んできました。17年度の議会運営委員会、各常任委員会の活性化・議会改革について報告いたします。

□□□□ 政務調査費報告：小野市の議員に対する政務調査費は、議員一人あたり12万円です。会派が実施する行政視察研修、講演会などに使われています。各会派の政務調査費報告について、詳しくは、議会のホームページに掲載しています。

議会運営委員会・常任委員会

●議会運営委員会

委員長：石田喜久男 副委員長：川名善三
委員：鈴木元、山中修己、加島淳、井上熙
正副議長：井上日吉、河島喜代美

1月16、17日に千葉県白井市（議会改革特別委員会の活動について）、習志野市（一問一答について）の2市で行政視察研修を実施しました。研修の成果は、議会改革・活性化と一問一答についての提言としてまとめました。

議会運営委員会として、議会活性化・改革について、議長につぎの提言をしました。

提言の内容

- ①研修会の開催と研修会・講演会へ積極的に参加する。
- ②議会報の増ページによる情報の発信を行う。
- ③会派ホームページを開設する。
- ④定例会への傍聴者の増員を図る。
- ⑤一問一答方式による質疑・質問の検討をする。
- ⑥議会役職の2年制を検討する。
- ⑦質疑・質問の人数制限の緩和を検討する。
- ⑧土、日曜、夜間議会開催の検討をする。
- ⑨議会事務局充実の検討をする。



●総務文教常任委員会

委員長：吉田成宏 副委員長：春名良兼
委員：松本義博、井上日吉、石田喜久男、
松井精史、井上熙

7月25～27日に北海道の岩見沢市（次世代育成行動計画について、自治体ネットワークセンターについて）、千歳市（市民協働都市経営会議について、市民参加型ミニ公募債について）の2市で視察研修を実施しました。

総務文教常任委員協議会（研修会）において、つぎの項目についての委員会活動を実施しました。

- ①8月10日 ■活性化対策協議
- ②10月27日 ■小中一貫教育について
■地域安心安全情報共有システムの取り組みについて
- ③11月8日 ■河合小中学校連携教育発表会
- ④11月21日 ■レポート提出（活性化について・小中連携教育発表会）
- ⑤11月24日 ■人事院勧告について、地域づくり協議会の活動について
- ⑥1月18日 ■懇談会事前打ち合わせ
- ⑦1月25日 ■市長と市政懇談会



□□□□ 議会運営委員会、総務文教・民生保健・地域振興常任委員会の「行政視察研修報告書」は、小野市役所ホームページを開いていただき → 小野市議会 → 委員会の紹介 → 「各委員会の行政視察調査報告書を公開しています」を開いてください。ここに各委員会の報告書の全文を掲載しています。ご覧くださいませようお願いします。

●今期市議会で可決された主な議案●

市長提出議案

□平成18年度予算

総額 393億9,320万円

《一般会計》190億円

《特別会計》111億4,800万円

《企業会計》92億4,520万円

【新年度の重点施策】

《子育て支援など福祉の充実》

- ・小学校3年生までの医療費の完全無料化
1億200万円
- ・全小学校にALT(外国語指導助手)の配置
3,070万円
- ・全中学校コンピュータ教室パソコンの新機種一斉更新
6,000万円
- ・地域介護・福祉空間の整備
3,230万円

《活力とにぎわいの創生》

- ・JR(神戸電鉄)粟生駅前公園の整備
1億6,700万円
- ・神戸電鉄樫山駅周辺の整備
1億850万円
- ・八ヶ池周辺の公園整備
2億3,770万円
- ・桜つつみ回廊の整備
1億3,600万円
- ・黍田下来住線自転車歩行者道の整備
2億円

《安全・安心のまちづくり》

- ・市街地の防災公園整備
1億900万円
- ・総合体育館のアスベスト改修
3,000万円
- ・高規格救急車の配備
3,640万円

《協働と参画の実践》

- ・うるおい交流館「エクラ」のNPOによる管理運営
1億3,000万円
- ・市民会館・コミュニティセンターおのの改修
1億9,000万円

《“ガーデニングシティおの”の推進》

- ・工業団地へのアクセス道路の修景整備
6,800万円
- ・市の玄関口の景観整備
5,200万円
- ・市役所周辺の道路整備
8,300万円
- ・ひまわりの丘公園周辺の道路整備
6,000万円

《その他(CS志向への挑戦)》

- ・道路整備事業の拡充
1億2,000万円
- ・国民体育大会開催における実行委員会への助成
4,650万円

意見書

- ・地方の道路整備の促進と財源の確保に関する意見書 (可決)
- ・出資法及び貸金業規制法の改正を求める意見書 (可決)
- ・公共サービスの安易な民間開放は行わず、充実を求める意見書 (否決)

議会推薦

- ・小野市農業委員の推薦
復井町 富田久巳 氏
阿形町 松田 弘 氏
古川町 井場紀年 氏
住吉町 松本 健 氏



計報

市民クラブの松本義博議員が2月1日、急逝されました。55歳でした。

松本議員は、平成15年に小野市議会議員に当選され、現在1期目の途中でした。地域振興常任委員会副委員長、総務文教常任委員会委員などを歴任され、市政の発展に大きく寄与されました。ここに、生前のご功績をしのび、心からご冥福をお祈りいたします。

本会議傍聴者が

目標の200人超える

平成17年度定例会本会議(4回開催)の傍聴にきていただいた方は、203人になり、目標の200人を超えました。(16年度は176人でした)

これからも議員一同、議員のチェック機能を駆使して市の政策全般にわたり質疑、質問を展開していきます。平成18年度の本会議もぜひ、お越しくださいますようお願いいたします。

18年度の6月定例会(質疑質問は、14・15日の予定)から、子育て中の保護者の方にもきていただけるように、託児室を設けます。市議会は、いつも市民のみなさまに開かれた議会をめざしています。

6月定例会日程

6月定例会の日程が決まりました。

日程	日	内容
6月2日(金)		本会議第1日
6月14日(水)		本会議第2日
6月15日(木)		本会議第3日
6月21日(水)		本会議第4日

本会議の第2日、第3日は、議員の質疑、一般質問があります。

議員からは、提出議案の質疑、市政全般にわたる一般質問を行い、これに対して、市長、部長が答弁いたします。